

イマヌエル教報

2018.

1

1947年7月1日第三種郵便物認可 2018年1月5日（毎月5日発行）

イマヌエル綜合伝道団

No.858

IMMANUEL

聖霊があなたがたの上に臨まれるとき、地の果てにまで、わたしの証人となります。（使徒 1:8）

起きよ、光を放て

教団代表 藤本 満



「起きよ。光を放て。あなたの光が来て、主の栄光があなたの上に輝いているからだ。」

（イザヤ書六〇章一節）

主のいつくしみの中で、私たちは新年を迎えました。世界を闇が覆います。その闇は、時に私たちの心の中にもあり、また教会の現況にも現れます。

「起きよ」とイザヤが語りかけたイスラエルの民は、失意の底にいました。バビロンに捕囚に捕られて七十年、戦いに敗れて、捕囚に捕られてから、明るい日は一日もなかったに違いありません。

そこに神の力強い声が響きます。「起きよ。光を放て。」なぜ起き上がって、光を放つことができるのでしょうか。それは、「あなたの光」すなわち主イエス・キリストが来られ、神の栄光が「あなたの上に」輝いているからです。

「あなたの上に」という表現が三回も出てきます。

1節「あなたの上に」輝いている

2節「あなたの上に」主が輝き

2節「その栄光があなたの上に現れ」

「あなたの上に」とは、暗やみに沈む私たち「めがけて」光が輝く、ということでしょう。

*

かつてヤコブが荒野で一夜を過ごしたことがあります。父イサクの死に際して、兄エサウになりすまし、長男の権利を奪い取ったためです。彼は怒り狂った兄

から逃れるために荒野に出ました。

闇に包まれた荒野は彼の状況を象徴していました。父を失った悲しみ、兄を裏切るような自らの闇、旅と新たな生活への不安。

その夜、彼は夢を見ました。一つのはしごが地に向けて立てられていて、天の使いが上り下りしています。なんと次の瞬間、主が彼のかたわらに立っておられました。主が降りてこられたのです。支えをすべて失った彼の前に主が現れ、祝福を約束してくださいました。主の栄光は、荒野の暗やみに伏すヤコブめがけて、輝きました。翌朝、ヤコブは立ち上がり、神を礼拝し、この地をベテル（神の家）と名付けます。

新生活を始める最初の日、彼は祭壇を築いて神を礼拝し、その地を「ベテル」（神の家）と名付けました。

*

それから数十年後のある日、ヤコブの家族が危機にさらされたとき、彼は家族の者に言います

「私たちは立って、ベテルに上って行こう。私はそこで、私の苦難の日に答え、私の歩いた道に、いつも私とともにおられた神に祭壇を築こう」（創世記三五章3節）。

立って、起きて、そして神を礼拝しに行きましょう。私たちのベテルで。私たちが下りてこられる主に、祭壇を築きましょう。主の愛と栄光が、私めがけて注がれます。暗い心が照らされるとき、私たちも輝きます。

目次

- 起きよ、光を放て……藤本 満……1
- 局長・新年を迎えて「期待と展望」……2
- 選挙公報、九州女性大会、ハラスメント研修会……3
- 海外トピックス、国内局コラム、読書のひろば……4
- 中部ブロック近況と祈りの課題、燭台……5
- 広げた翼……6～8
- 聖宣神学院報……9～11
- 公報、消息……12

Immanuel

2018年 第21次総会を迎える年に

明けまして
おめでとうございます



「わたし自身がいっしょに……」出エジプト 33:14

多くのお祈りとお支えをいただいた第20次総会期を終えようとしています。藤本満代表を中心にして、教団運営委員の先生方はこの3年間、心血を注いで、祈りながら群を導いてくださいました。心からの感謝を表したいと思います。心から第21次総会期は、いよいよよ正念場を迎えることとなります。3月には新しい代表が選出されます。新しい体制で進発する群のために、ぜひお祈りください。

さて、これまでご奉仕くださった局長の先生方に「期待と展望」を書いていただきました。

期待と展望

建設的妥協の精神をもって



総務局長
北田 直人

私たちはそれぞれの教会総会、そして第21次教団総会を間近にしています。意見の相違は、どこでも見られるものです。使徒の働きを見れば、バルナバとパウロは若いマルコを連れて行くかどうかで対立し、結局、別行動を取ることになりました。

アポト師も同様の経験を語っています。宣教地のチャペルが完成したとき、ベンチを置くよりもマットを敷いた方がふさわしいと判断されました。職員からベンチを作ろうという提案が出るたびにアポト師たちは強く反対しました。報告帰国後、戻ってきたらベンチが並んでいます。放り出さなければという思いが浮かぶ中、聖霊は「譲りなさい」と語られました。「譲れない基本概念の問題については譲りを持ちつつも固く立つべきです。しかし意見や見解の相違といった問題については建設的妥協の精神をもってお互いに従うべきです」(ホリス・アポト)。

私たちは建設的妥協の精神を持ち続けようではありませんか。

期待と展望

積極的な協力・共労を



国内教会局長
内山 勝

「権力によらず、能力によらず、わたしの霊によって」(ゼカリヤ四・6)

ある超教派の集会で、「これから先は、私たちの過去の実績や経験が通用しない時代に入っていく」と発言した牧師がおられました。確かに、私たちの群れも、未経験で大きな変化を伴う時代に突入して行くこととしています。

特に、引退者増加に伴う牧師数の減少が加速度的に進むことにより、兼牧・合流などの措置を取らなければ、対応できない状態がしばらく続くことを想定しなければなりません。

そのような中で、各教会で教会間協力と牧師・信徒の共労に積極的に取り組んで行くことは、必然でしょう。しかし、それは単に現実に必要なに迫られているからというだけの理由ではなく、それが私たちが聖書的な教会へとさらに成長する道に他ならないからです。

まず、私たちは、人間的な知恵や力に絶望し、聖霊の導きを遜って祈り求めたく願います。

期待と展望

主の声に応答を



世界宣教局長
梅田 登志枝

「ここに、私がおります。私を遣わしてください」(イザヤ六・8)

昨年世界宣教局や宣教師たちのためにお祈りとご支援をいただき感謝いたします。今年も宣教地からの毎月の報告や、巡回報告(3月まで葛田康毅、由理宣教師、7月頃からは葛田就子宣教師)、宣教ビデオなどによって、教会と宣教地との相互理解、また世界宣教への関心を深めていただくことを願っています。

今年春には、局長がザンビアとケニヤを、宣教師館と宣教車の献別式のため視察訪問します。カンボジアのKCC(カンボジア・クリスチャン・コミュニティ)では、本部、牧師館、宣教師館の建物が完成します。神様はこのように、各地で働き場を備えて宣教師を求めておられます。冒頭のイザヤの言葉のように、主の声に、「ここに私がおります」と応答をされる方々が起こされますように。

また宣教のために、財と、人そして祈りを捧げ続ける教会でありませうように。

期待と展望

信徒局と連携して



教育局長
林 正弘

「キリストによって、からだ全体は、あらゆる節々を支えとして組み合わされ、つながり合われ、それぞれの部分はその分に応じて働くことにより成長して、愛のうちに建てられることとなります。」(エペソ四・16)

教育局では、一貫して各教会、教区、ブロック、全国の各段階で「キリストのからだを建て上げるため」の環境を整えていくことを目指して働きを進めてきました。その実現は決して簡単ではありませんが、このために多くの祈りと参加・協力をいただくことができ、感謝しております。

本年3月の第21次総会を期して、信徒局が創設される予定です。そうなること、教育局自体もその体制が変わることになります。しかし、目指すところは変わりません。そしてそれは、それぞれの部分の分に応じて働くことによる実現していくものです。

働き人の整えにも、壮年、女性、青少年各層の活動にも祝福を期待しています。ぜひ祈りください。

選挙管理委員会から

選挙公報

▼代表予備選挙

次期教団代表候補3名を選出する予備選挙は、11月20日で締め切り、12月5日に開票作業を行いました。選挙権者207名に対して、投票数199通、うち有効投票数196通でした。

▼3名の代表候補者

集計の結果、得票数の上位3名を、次期総会時に実施される教団新代表選挙の候補者として確定しました(以下、敬称略・五十音順)。

- 岩上 祝仁 (神戸教会)
- 内山 勝 (名古屋教会)
- 梅田 登志枝 (中目黒教会)

なお、「代表選出規定」に則り、各候補者の得票数及び順位は公表いたしません。ご了承ください。

▼3月総会時には新代表選出へ

3月3日(土)に開催されます第21次教団総会において、教職・信徒代表議員(計62名)の投票により、これから3名の候補者の中から新しい教団代表(代表役員)が選ばれます。3名とも得票数が過半数に満たない場合には、上位2名による決選投票を行います。

これまでの一連の選挙で投じられた票が、選ばれた器に重荷を押し付ける手ではなく、励まし支える手であることを祈り願います。

第21次総会

教団代表候補者

プロフィール

岩上 祝仁



1965年2月生まれ。神戸教会出身。神学院卒業後、神戸教会副牧師を経て、久留米教会、神戸教会の主任牧師として奉仕。2012年より南日本ブロック・アドバイザー。

内山 勝



1956年10月生まれ。四日市教会出身。神学院卒業後、豊中教会を開拓。久留米教会、豊田教会、名古屋教会の主任牧師として奉仕。その間、教会学校部長、中部BA等を歴任。2012年より国内教会局長。

梅田 登志枝



1952年8月生まれ。中目黒教会出身。神学院卒業後、別府教会副牧、梅田昇師と結婚後、蕨教会開拓。フィリピン宣教師を経て市川教会、中目黒教会で奉仕。2015年より世界宣教局長。

九州教区女性大会

証しに感動しました

久留米教会 吉村百合恵

11月23日、熊本教会を会場に九州教区女性大会を持ちました。講師は日本ホーリネス教団広島福音教会の加藤久美子先生でした。先生は生まれつき重度の難聴という障がいをお持ちでした。しかし幼少期に自宅隣の教会に入会し、祈り、先生や教会の方々の愛情と祈りに支えられ、教会を居場所として過ごされました。思春期に入り、手術のために入院を繰り返すという辛い中を通られますが、先生が下さった聖書をむさぼるように読み、神様に捉えられ、洗礼を受けられました。その後、奇跡的に聴力が回復、献身、結婚など祈りによって導かれたと証ししてくださいました。午後、「賛美フランダース」と、ヨハネ二・五のメッセージ「右側に網をおろしなさい」から、自己流の信仰ではなく、神様の導きに従って行動しましょうと語ってくださいました。



神奈川教区ハラスメント研修会

ディスカッションも活発に

人間の尊厳とハラスメントの理解

神学院教会 小川宣嗣

11月23日の祝日、神奈川教区では、教区内諸教会から牧師・信徒合わせて25名の参加者が共に集まり、聖宣神学院本館を会場に、ハラスメントに関する研修と学びの時を持ちました。

午前は、人権委員会の河村徒彦先生より、テキストの委員会作成パンフレット及びご自身が用意された「人間の尊厳とハラスメントの理解」と題する資料に基づいて、イムマヌエルでこの問題が論じられるようになった背景、その背景にある考え方(内容項目)「聖書的な人格の尊厳の理解」「聖書的な権威の理解」「主イエスのスタンス」「教会の政体の違いや注意点」「自己への向き合いと客観視」「恵みの福音に生きる」等、それらを踏まえた上での実際的な取り組みの指針について、示唆に富む発題をしてくださいました。まとめの部分で、「やっていないから大丈夫」という守りの姿勢(律法主義)ではなく、「愛と配慮を

表現して行こう(恵みに生きる)」という肯定的姿勢を大切に語り、それが印象的でした。

昼食休憩では、他教会の牧師・信徒同士の交わりを楽しみ、午後の時間に小グループに分かれての意見交換の時を持ちました。講師によって掲げられた質問は、「社会で生活する時に感じるレベルと教会で感じるレベルのギャップ」「教会における信頼関係構築のために、牧師として信徒として何を考えるか」「相手が変わることを要求しがちな弱さを乗り越えるために必要なことは何か」「自分の所属教会が祝されるために、基本的な在り方や関係作りにおいてどんな貢献ができるか」等でした。各グループとも、牧師・信徒の区別なく、非常に活発かつ建德的な雰囲気で見聞交換がなされ、教会の祝福のために感じたことを分かち合う時間となり感謝でした。



国内教会局から

新約の諸教会再訪
愛された教会



小アジア西側に敷かれた環状道路沿線に、教会が建てられた町々が数珠つなぎのように並びます。パウロが触れた教会で言えばエペソやコロサイ、そしてラオデキヤ。使徒ヨハネもまたこの幹線沿いの諸教会に心

を傾けました。黙示録の七つの教会がそれです。その中でも訪れてみたい一つがラオデキヤです。生ぬるいので口から吐き出すとたしなめられ、自己分析的を外している指摘され、しまいに悔い改めるように迫られた、あの教会です。それでも主から「愛する者」だから叱ると言われ、そして「わたしは戸の外に立っ

てたたたく」「ともに食事をする」とまで呼びかけられ、さらには、勝利を得た晩にはわたしの座に着かせるとまで約束を頂いた教会。一体どのような魅力があったのでしょうか。周囲の諸教会と比べて優劣や良否を計る人の物差しとは次元の異なる慈愛をもって愛されることを知った教会と言えるかもしれません。(葛田崇志)

■マレーシア政府の「聖書」マレー語翻訳案に教会反発
マレーシアの首都圏セランゴール州のイスラム宗教評議会が「聖書」のマレー語訳を国家言語局が行なうべきだと提言したことに、キリスト教側が強く反発。全国キリスト教福音派協議会は、キリスト者が「神」を表す語として「アラ」 という言葉を使う権利を否定しようとするのだと指摘。イスラム宗教評議会が「聖書」を改定することでキリスト教信仰に介入しようとしていると批判した。

を表す語として「アラ」の代わりに「トウハン」を使うよう求めているという。

■英国で無宗教者が過半数に



海外トピックス

イギリスの『国立社会調査センター』が発表した「信仰している宗教」に関する調査によると、現在イギリスで何の宗教も信じていないという人の割合が、半数以上の53%に達した。前回2015年の調査の48%から5%増えたことにな

なる。イギリスでは、無宗教者の割合は、調査を始めた1983年当初には31%だったが、それ以降は増え続けている。特に若い人たちの間で宗教を信じる人の減少が顕著。16年には、18〜24歳層の71%が、何の宗教も信じていないと答え、前年の62%から急増。すべての年齢層で宗教を信じている人の数は減少しているが、高齢者はまったくの無信仰という人は少ない。無信仰と言う人は、65〜74歳の4割、75歳以上では27%。

特定の宗教を信仰している人の減少は、特に英国国教会に打撃を与えている。自分は国教会派だと考えている人は僅か15%で、2000年からは半分に。若者についてみると、18〜24歳では3%で、75歳以上の40%に比べると非常に低い。同センターのロジャー・ハーディング氏は、この状態は、長期的に宗教との乖離がますます進む傾向につながる、と指摘している。(平瀬聡樹)

読書の

ひろば



新しい年に恵みの冠を！

日々のデイボーション

を豊かにする

恵みの書籍！

インマヌエル出版事業部に

ご注文ください。

今年、デイボーションのために助けとなる良書を紹介いたします。

●『岩から出る蜜』

(葛田二雄著、新装再版)

まず、しばらく品切れとなっていました『岩から出る蜜』が装丁も新たに再版されました。初代神学院院長(初代総理)の肉声が聞こえてくるような鋭いメッセージが私たちを導き励まします。同じく初代総理の『朝毎に主を待ち望む』では伝道者と密室祈禱についての講義が記されています。伝道者のみならず信徒の方々にも貴重な学びの一書となっています。

●『新しい朝に』

(ジョン・T・シーモンズ著)

教団内外問わず好評をいただいている365日のデイボーションの読み物です。使徒の働きから信仰、宣教について独特の視点でメッセージが語られます。

●『主を仰ぐ朝』

(ジョン・T・シーモンズ著)

同じく、シーモンズ師の著書です。四福音書からのみことばが土台となっており、一年間で福音書全体が読めるようになっていきます。主イエスとともに旅するように読むことができ、主に関する恵みと知識が深められます。

●『エマオの道で』

(デニス・F・キンロー著)

日本聖化協力会発行の書です。日々短い聖句が取り上げられ、歴史的なエピソードや著者の体験、聖書の物語など、さまざま角度からの霊想がなされています。

他に『みことばに生かされて』

(松村献一著)『聖書通読表』『ト

ラクト 神との交わり』などは、

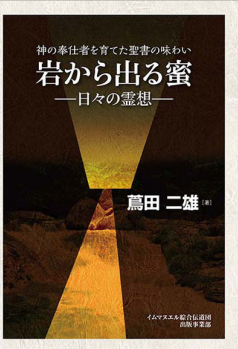
デイボーションの学び、助けとなります。一月末まで特価です。

●電子書籍もどうぞ！

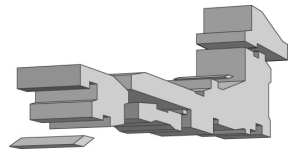
電子版の良書も発売されています。

『エマオの道で』は三分冊で各三百円とお買い得です。『岩から出る蜜』藤本満師の『祈る人々(上・下)』JHAの『聖化の説教』なども読むことができます。「読む人は育つ人」。今年も良書などに触れ成長いたしましょう。

(川村和臣)



国内教会局 スクエア



中部ブロックの 近況と祈りの課題

ブロック・アドバイザー
葛田直毅

中部ブロックのBAとしての
ご奉仕も残り少なくなりました。
これまでのお祈りに感謝申し上
げ、近況をご報告いたします。

中部ブロックは雪国の北越教区
と、一部を除いてほとんど雪の降
らない静岡教区を含む広い教区で
す。特に北陸では、外に対しての
伝道の働きにも制限の加わる時期
であると共に、先生方は日々の雪
かきに追われる時期でもありま
す。先生方のご健康のためにお祈
り頂ければ幸いです。

この原稿を書いている時点では
各教区の受洗者の数などはまだ届
いていませんが、各教会のクリス
マスの集会の祝福と豊かな結実を
祈り、期待しています。

北越教区では、はじめて2か所
に分かれての聖会がもたれ、新潟
地区の聖会には林正弘師をお迎え
して平均50名、北陸地区(金沢)
の聖会には内山勝師をお迎えして
平均70名ほどの参加者が与えられ
ました。ますます高齢化が進む中、
祈りと工夫がなされています。

新年にはいくつかの教会で新年
聖会が開催される予定であり、役

員研修会も予定されています。

小松教会は少人数ではありますが
たが、葛田崇志師を迎えて40周年
の感謝の集会を持たれました。

金沢泉教会では土屋繁先生ご夫
妻を協力牧師にお迎えし、早速、
青年たちや、小さい子どもさん
を持つ親御さんたちへの働きなどに
積極的に取り組んでおられ、教会
が活気にあふれています。

冬は雲が低く垂れこめる北陸の
地域で労される先生方と教会のた
めに、引き続きお祈りをお願いい
たします。

中京聖会では、竿代照夫師をお迎
えして90名を超える参加者が与え
られました。

中京教区では、教会同士が比較
的近いこともあり、全部の教会で
交換講壇に取り組まれています。
牧師だけでなく、幾人かの教会員
とともに教会間の交流がなされる
取り組みです。

会堂問題と取り組まれている名
古屋教会では、例年通り東海聖化
大会が開催されました。2日目は
日本イエス名古屋教会で、東海聖
化公友会の30周年を記念する集會

が続きました。

9月には東海宣教会議(TOCC
OME6)も開催されましたので、
中京教区にとっては忙しい秋とな
りました。

静岡聖会では平均80名を超える参
加者が与えられました。広い教区
のため、西寄り、東寄りに会場を
変えるなどの工夫をしています。

今回は新しい会場でもあり、また
高齢化のために参加人数は伸びま
せんでしたが、鎌野善三師をお迎
えして、幸いな聖会となりました。

新年度に向かって磐田教会の新
年聖会、青年大会や久しぶりの
CS教師講習会の準備も進んで
います。

静岡教区の全教会の親教会であ
る静岡教会では、常駐の牧師が不
在となり、教区でもお祈りに覚え
ています。役員・信徒の方々が一
丸となって、懸命に教会を支えて
おられます。

沼津教会も、荻野倍弘師が協力
牧師として、多くの時を割いてご
協力くださっています。シオン教
会の払ってくださる犠牲にも、心
から感謝しています。

浜松教会では20年にわたる会堂
の借入の返済を終わり、感謝の礼
拝を守りました。多くのお祈り感
謝いたします。

開拓からの教会の多い三教区で
す。比較的若い先生方も多くおら
れることですが、牧師や教会員の
高齢化も現実的な課題となってい
ます。新しく救われる方々が興さ
れますよう、なお祈りください。



聖書に親しむ年に

「聖書はあなたに知恵を与えて
……。」「(IIテモテ三章15節)

◆ずいぶん前のことであり、しか
もたった一度の経験ですが、勧め
られて、ある信仰の小冊子を読ん
だ後に、私は何とも言えない不快
感に襲われたことがあります。原
因は、その翻訳文にありました。
文体や語彙は人さまざまですから、
非は訳者にはありません。◆活字
が中心の「本」を初めて手にした
のは小学一年の時、旧仮名遣い
の『アンクルトムズ・ケビン』で
した。夢中で読破し、以後、本の
少ない時代でしたから、日本のも
のであれ翻訳物であれ、手に入っ
たものに引き込まれるようにして
読んできた私にとって、冒頭の出
来事は衝撃的なことでした。爾来、
キリスト教界の翻訳書は、恐る恐
る開くようになりました。◆翻訳
と云えば、私が読んでいる聖書も
そうです。けれども、幸いなこと
に、教会の公用聖書に対して抵抗
を感じたことはありません。「神
の言葉」を、日々読んで祈ること
に懸命で、それ以外に余裕がない
というのが本音です。◆さて昨
夏、お世話になっていている方々の伝
道のために聖書を贈ろうと決めて

以来、『新改訳2017』の発行
を、一日千秋の思いで待っていま
した。届いた聖書で、最初に読ん
だのは詩篇です。その時、なんと
も言えない、凜とした気配が漂う
と同時に、どんなに多くのご労が
払われたのだろうか、感謝の気
持ちに溢れました。◆私は大学一
年の時、イムマヌエルではない教
会に行きはじめ、二年生で洗礼を
受けました。それから間もないあ
る日、牧師先生から左の質問をさ
れたのです。先生は『新改訳』の
翻訳をされていたようで、新約聖
書の一節を示して、「この箇所は、
原語では、(AとBを)とも(B
とAを)とも訳せるのですが、日
本語としてはどちらがいいでしょ
う?」。事の大きさを全く弁えて
いない私は、間髪を入れずに答え
たものです。「前者です。私にとっ
て、それは考えて決めることでは
なく、日本語に対する感性の問題
でした。『新改訳2017』でも
その箇所はいじられてはいません
が、そこを開くと、若き日の恥ず
かしい自分の姿が浮かび上がります。
◆それはともかく、新しい年
が聖書に一層親しむ年となります
ように。
(久保以津子)

巻頭言

聖霊のそそぎを



世界宣教局長
梅田登志枝

新しい年になりましたが私たちは、ますます厳しい時代を迎えています。アメリカと北朝鮮の対立の激しさは、いつ、何が起きてもおかしくない状態です。それは日本に住む私たちに不安と緊張をも

たらしています。一方教団は、少子高齢化の時代に連動するように、教会員や牧師の高齢化という深刻な課題を抱えています。このような中で三月には、大切な教団総会と年会が予定されているのです。ヨエルは、「わたしの霊をすべての人に注ぐ。あなたがたの息子や娘は預言し、年寄りや夢を見、若い男は幻を見る。その日、わたしは、しもべにも、はしためにも、わたしの霊を注ぐ」(ヨエル書二章二八・二九節)と預言しました。私たちが祈るべきことは聖霊の注ぎと働きです。新しい年が来ても、何かが新しくなるわけではありません。私たちが信仰者が聖霊の注ぎを受けて、新しいヴィジョンを持って前進していくことが大切でしょう。

まず初めに、主の霊が注がれると約束されています。預言者ヨエルは、いなごの大群が、次々にやってきて、イスラエルの植物のすべてを食べ尽くすさまを見つめていた預言者です(一章4〜7節)。それはイスラエルの罪に対する裁きのためでした。そのように希望の見えない時代に、聖霊の注ぎを預言しているのです。

次に、主の霊は、すべての人に注がれることが約束されています。息子たちや娘たち、また高齢者にも若い人々にも約束されているのです。罪に汚染された人間の内側からは良いものは出てきません。天よりの聖霊の注ぎは、新しい霊的いのちと、生きる動力を与え、キリストの証人を生み出します。使徒の働きを見ますと、聖霊に満たされた弟子たちが、エルサレムから始まってユダヤとサマリヤの全地に至るまで主の証人として歩み、福音を伝え続けたのです。

最後に、主の霊は、信仰者たちに夢やヴィジョンを与えます。緻密な現状分析による将来のシミュレーションはとても重要です。しかし、それは主の霊が信仰者に抱かせてくださる夢や幻を消し去ることはできません。

私たちの時代はヨエルの時代のようにあるかもしれません。けれども聖霊は、信仰者の内に新しい祈りとヴィジョンを与えます。主を見上げる者に、希望はあり続けるのです。迎えた年、聖霊の注ぎを祈り求めましょう。



広げた翼

Immanuel
His Wings

Department of World Missions

<http://www.immanuel.or.jp/world/>

世界宣教局



PHILIPPINES

フィリピン

豊田常喜・恭子*2017年12月5日

「アブラハムは主を信じた。それで、それが彼の義と認められた。」(創世記一五章6節)

日本の教会と同様に、フィリピンのウエスレアン教会も11月に世界宣教聖日礼拝が守られます。今年、常喜が説教者として招かれ、説教をしました。神の御心としての宣教と、宣教のために人が必要であること、用いられる器への神の配慮について語りました。礼拝を締め括るにあたり、私たち家族が前に呼ばれ、同席されていたウエスレアン教会の代表ギリアモ先生がお祈りしてくださいました。今月のチャペルのテーマは「ホーリネス」で、常喜はマタイの福音書八章より主イエスがツアラアトに冒された人に手を伸ばされ、触れられ、癒やされた箇所からホーリネスについて話しました。説教の後には、聖餐式が執り行われ、主イエスが十字架の上で割かれた肉と、流された血の恵みに与りました。



義実と恭子のためにお祈り頂き有り難うございます。恭子は日常生活には困らない程度まで回復してきましたが、2時間おきに授乳をしなければならぬので夜はあまり眠れていないようです。そんな中、2人の娘たちが代わる代わるに義実を抱いたり、あやしたりして母親を助けてくれています。最近、目が見えてきたのかよく笑うようになってきました。義実(いさみ)のパスポートを申請し、無事に取得することができました。申請するのに一番困ったことは、写真でした何度撮っても目が開いた状態で写っている写真が撮れませんでした。段々と成長するにつれて顔立ちがハッキリとしてきて、3週目でようやく撮ることができました。また、申請、取得に際してもロザリスからマニラまで往復しなければなりませんでした。いずれにせよ、申請から取得まで支障なく手続が進み、感謝でした。引き続きビザ申請のために祈りをお願いします。



TAIWAN

台湾

平瀬義樹・光世*2017年12月7日

「信仰による祈りは、病む人を回復させます。」(ヤコブ五章15節)
11月の台南集会には、椎間板ヘルニアで長年苦しんでおられたF兄が久しぶりに来会されました。
家族の願いで最新医療施術を受け、半年の療養を経て、念願の出席となりました。
はつらつとした表情で経過報告をくださり、集会后には、腰痛でコルセット着用中の牧師を力強い握手で励ましてくださいました。
現在、台南集会には、多くの先輩のメンバーが熱心に集っておられます。夏以降、体調の不調で、入れ替わりの出席状態ですが、一人ひとりの心に主が豊かに働いてくださいますように、祈っています。
今月の集会には、継続来会中の、蔡紅玉さんが不調を訴え、緊急検査入院されたとの報告を受けました。
集会后、お見舞いに行こうと病状や病院など、詳細を確認していると、一度会場を後にした集会メンバーが、一人ふたりと戻って来られ、私と

ものお見舞いに同行したいとの申し出でした。
大挙して病院に向かうことになり、皆で病室を訪ね、蔡紅玉さんから直接、経過報告を受け、共に語らい、最後はみんなで蔡さんに手を置いて祈りました。
大人数でのお見舞いに、入院に付き添う息子さん夫婦が少し驚きながらも、おばあさんがたくさんの人から愛されていることを実感し、大喜びされていました。
今回の訪問は家族の理解を得てから受洗したいという強い希望のある蔡紅玉さんにとって、大きな証しと後押しの時となりました。
精密検査の後、治療方針が確定し、退院、通院治療が続けられています。
台中教会でも、11月に入り脊髄の磨耗補強施術を受け、外出ができなくなっていた張淑毓姉ご夫妻が快復され、礼拝に集うようになられました。
それに呼応するように、幾多の難病が併発していた林來英姉も強められ毎週の礼拝に戻って来られました。
「おはようございます」ではなく、「お帰りなさい」と思わず声を掛けた教会メンバーの言葉に「本当に戻って来ました。当初は、痛みが出、痺れが出続け、もう教会には行けないかもしれないと落胆したけど、感謝です。たぐいまりました」との満面の笑みがとても印象的でした。
病院や老人ホームなどを訪問し、語らい、交わる時、いつも多くのことを教えられます。
その日その日を真実に生きる大切さ、一つの、どんなに小さなことにも



感謝、喜びを再発見しておられる心の透明さ、幾多の問題や課題、痛みや痺れを覚えながらも、主の忍耐と重ね合わせておられる芯の通った信仰の言葉などです。
教会では、目に見える形で応えられた祈りの答を目の当たりにし、改めて祈りの力を再認識しています。
「義人の祈りは働く、大きな力があります」(ヤコブ五章16節)。「もし、あなたがたのうちふたりが、どんな事でも、地上で心を一つにして祈るなら、天におられるわたしの父は、それかなえてくださいます」(マタイ一八章19節)。
もう少し具体的に、大胆に祈ってみよう。
もう少し祈りの範囲を広げてみよう。
愛兒姉方のお祈りが変化してきました。
現在、クリスマスの特集に向かって準備が進行中です。
特に、今年はハンドベルの特別音楽です。
これまでに楽器を持ったことのない人が多数参加し、毎週、てんやわんやの大騒ぎをしながらの取り組みです。

主の御名を賛美します。11月は出入りの多い月となりました。
また多くの奇跡を見せていただく月となりました。
宣教車は日本車ですが、イギリス国内で造られたもの。
ナミビアの港に着き、そこまで友人が取りに行ってくれました。
2日以内にナミビアを出国しないと長期滞在として罰金がかかります。
そのため、約1500キロの道のりを2日かけ取りに行ってくれました。
国境に着いたと聞いた時には御名を崇めました。
道が悪いところがありました。
車も友人も無事に帰ってくることで、手続きにもでき本当に感謝です。
手続きにも多くの方の助けをいただき、全て守られ終えることができました。
早速、クリニックの用事でルサカに出るようがあり、とても安定した走りを感じています。
途中、車の異常を知らせるランプがつき(ファンベルト)急ぎよ見てもらうという出来事はありましたが、無事にベルトの交換をし、旅を続



ZAMBIA

ザンビア

根廻恵子*2017年12月3日

けられました。結局ちよつとした接続の異常であったようです。
クリニックのための医療機器を取りに行く用事であったので、荷台スペースが大きいことは、それを運ぶためにかなり助けになりました。
就労ビザのためお祈り頂きありがとうございます。
2度目に確認に行った時に無事に受け取ることができました。
ある知人を車で村に送り届けることがありました。
その際、車のに左前輪を蟻塚にぶつけてしまい、修理が必要となりました。
一時は部品を交換しなくてはならないと言われましたが、セカンドオペニオンを求めたところ、修理可能と言われ胸をなでおろしました。
その間もなく、今度はサイドミラーを壊してしまい、いま替えを探しています。
11月は特別なお産のケースが多い月でした。
双子の逆子の経膈分娩、早期産、頭からではなく顔からの経膈お産、吸引分娩。
このような特別なケースが常にあるわけではありませんが、たまたまこうしたケースが同じ月に重なりました。
このような中でも母子たちを無事に退院へと見届けることができ、本当に神様の御手があったこと、また日頃の皆様のお祈りがあることを感じました。
先月号にも記載しましたが、外来病棟の修繕工事が行われ無事に終わりました。
30日その献堂式のために在ザンビア中国大使や国民議会議長やPWCの監督などVI

Pをクリニックに迎えました。クリニック総動員となって準備に取り掛かりました。またコミュニティに声をかけ、多くの助けを得ながら微々たる予算の中、限られた時間の中で見事にやり遂げることができました。

最後になりましたが運転免許の更新を2日前に行い、無事スムーズに終えることができ感謝です。引き続きお祈りをよろしくお願いいたします。



KENYA

ケニア・テヌウェク

葛田就子*2017年12月7日

ケニアの治安のためにお祈りを有難うございます。最高裁の判決で、2回目の選挙が有効とされ、現職大統領の再当選となりました。11月26日に大統領就任式が外国の来賓も迎えて執り行われました。同日に野党の候補者が、ナイロビ市内の別の会場で独自に大統領宣言をするという話もありましたが、警察等による厳重な警戒の中、当日の実施はされませんでした。しかし、ナイロビ市内や沿

岸地域、ケリチョー郡、国境近辺などの要警戒地域では暴動や警察との衝突があり、多数の死傷者が出たと聞いています。その頃まで文字通り連日状況を知らせ続けていた大使館メールも、今は頻度がぐっと減り、状況は小康状態というところですね。ただ、次の国民祝祭日である12月12日に野党の候補者が自分こそ大統領であると宣言するとの情報があり、緊張は続いています。引き続きお祈りをよろしくお願い致します。

主任代行の期間についてお祈りを感謝申し上げます。もう一人の副主任の多大な助けや、休みにも関わらず大事なところで立ち寄ってくださる主任の助けを得ながらも、なかなか徒歩5分の家に帰れない時もありますが、支えられているのは祈って頂いているからと感謝しております。11月の終わりとともに過密だった学生がぐっと減り、今は隣の看護学校からの2番目のグループ8人と、麻酔科アシスタントの学生2人のみとなっています。

12月に入り、ナイロビの医療品会社が12月中旬から1月中旬までの長期休暇に入る前に十分なストックをする作業にも追われています。冒頭の情勢を見ながら、平和的解決を祈りつつも、いつもより多めのストックをしている所です。また1月の初めから2月間ほどの心臓外科チーム、2月の別のチームとも連絡しつつ、必要な品がそろおうようにお祈りください。

物品もですが、今まで定年を数年延長して下さった麻酔科スタッフの本当の引退等により、来月から深刻な麻酔科スタッフ不足になります。医師・看護師のストライキが終了し、各地の病院が再稼働することにより、今まで助っ人で来て下さっていた元麻酔科スタッフの方々が来られなくなるといっては皮肉な事です。12月に入ってから、今年中でないと消化できない休みやら父親産休やらが重なって、毎日手術室一部屋を閉めている状態ですが、外科部長との連携や理解があるのは感謝です。

コンパッション部門があります。来年1月から6月までに充填して、特に影響のひどい地域への支援を、関連地域の教会や宣教師および政府や他の支援団体とも連携をとりつつ、行おうとしています。「教会全部が福音のすべてを全世界へ」とのモットーにより、人々の必要に届きつつ、人々に届こうとしているこの働きのために祈りください。目標額は1月に重点点を置き、6月までに少しずつ比重を減らす方向でAGCと関連の深い14の拠点到主食品のトウモロコシ粉、蛋白源の豆、食用油を届けるため、日本円にして約一千万円です。

物品もですが、今まで定年を数年延長して下さった麻酔科スタッフの本当の引退等により、来月から深刻な麻酔科スタッフ不足になります。医師・看護師のストライキが終了し、各地の病院が再稼働することにより、今まで助っ人で来て下さっていた元麻酔科スタッフの方々が来られなくなるといっては皮肉な事です。12月に入ってから、今年中でないと消化できない休みやら父親産休やらが重なって、毎日手術室一部屋を閉めている状態ですが、外科部長との連携や理解があるのは感謝です。

お祈りの課題

香港(鹿島)

◆新しい年与えられたお言葉に活かされますように

◆広州(番禺・祈福)での働きのために、今年も良い出会いが与えられますように

◆香港社会の平和と日中関係が良好に保たれますように

◆カンボジア(葛田緑乃)使用中のアパートを家主の都合で12月末までに明け渡すよう言われました。今後も使用を希望していますので、最善がなされるようにお祈りください

◆来年8月の選挙に向け、政府の中に微妙な動きが見えてきています。建設中の建物が平穏のうちに無事に完成するようお祈りください

◆伝道の急を要するこの末の時に伝道者と教会が霊的に「眠り始めている」状況を感しさせられます。教会が目覚め、伝道者が救霊に心を注ぎ労するため聖霊のご傾注をお祈りください

◆ザンビア(富澤)

◆日本の寒さに耐えられるように

◆車の購入に関わることが最善に守られるように

◆ザンビア(根廻)

◆宣教師が事故、過ちから守られ、用いられるように

◆ザンビアでの生活とクリニックでの働きのため

◆ケニア(葛田就子) 飢饉の影響のひどい地域の方々のため、またAGCの支援計画の必要が満たされて福音のために用いられるように

◆テヌウェク病院の働き人(ルカー10章2節)特に麻酔科の必要が満たされるように

◆ファイリピン(豊田)

◆新校長アレックス先生のリーダーシップのために。学生たちがサタンからの誘惑、攻撃から守られ、学びと訓練に励むことができるように

◆来年から4年生はインターンシップで4か月、地域の教会に住み込みで奉仕をします。準備と御守りのために

◆事故、事件、怪我、過ち、災害から家族が守られますように。子どもたちの学びのために。(恭子と義実のために)

◆台湾(平瀬)

◆クリスマスに向かい一致して進んで行けるように。手作りの教会クリスマスが祝されるように

◆私たちが宣教師家族の健康と生活が守られますように。義樹の腰痛の癒しのため

◆台湾を取り巻く複雑な国際情勢の中、台湾の政治や経済、治安が安定を見るように

◆東京国際教会(葛田康毅・由理)

◆8年間の東京国際教会における華人宣教が守られた感謝

◆今後の導き、歩みのため

聖宣神学院報



Immanuel Bible Training College

枯れ木に芽を出させる

院長 ● 河村 從彦

「空の鳥が来て、その枝に巣を作るほどの木になります」

(マタイ二三・32)

イエスさまはマタイの福音書13章で、「天の御国はからし種の木と比べてみると、いろいろ見えてくる」と言われました。

ここには「からし種が生長し、空の鳥が巣を作る」と書かれています。鳥が枝に巣を作るほど大きくなりませんが、実はからし種は灌木で、葉草として重宝された反面、すぐ野生化する厄介者でした。鳥が巣を作る大木といえば、レバノン産のヒマラヤ杉です(詩篇一〇四・16、17)。生長すると30

メートルほどになるそうです。そうだとするとこのたとえ話はイメージがずれず。なぜイエス

さまはこういう言い方をされたのか。実はこのズレがメッセージになっているのかもしれない。

イエスさまが言おうとされたことは、神の国は最初小さくても大きくならないイメージではなく、さえない灌木みたいで、厄介者にすら見える。でも、それでいい。もし神の国に栄光のヒマラヤ杉を重ねるなら、「主であるわたしが、高い木を低くし」とあるように、いつか切り倒されるということです(エゼキエル一七・23、



信徒土曜講座「信徒として教会に仕える」田中進先生

24)。
その次のみことばが意味深いと思いました。「主であるわたしが、枯れ木に芽を出させることを知るようになる」。自分が枯れ木であることを知る。わたしたちは枯れ木だから、「神さまが芽を出させる」新しいメッセージが必要なのです。過去の見える何かに頼りたくなるのが人間です。なぜ見えない栄光に頼りたくなるのか。そのことも含めて自らのありようを問う。これがなければ、見えない世界で働かれる神さまの新しい芽を期待することもないでしょう。献身とは何か。召命とはどういうことか。今の時代の神学教育はどうあるべきか。こういったことともに、教壇に立つ私は、きよめは自分の生き方の中で機能したのか。自らを問うてみたいと思います。

聖宣神学院入学案内

この春、入学審査受験を希望される方は、以下を読み、間違いないように手続きを行ってください。

◆出願資格、コースは、パンフレットやHPで確認してください。

◆出願書類、以下の書式一式を神学院宛請求してください。

- 一、所属教会牧師推薦書 一通
- 二、教会信徒推薦書 一通
- 三、入学願書 一通
- 四、健康診断書 一通
- (いずれも聖宣神学院所定の書式)
- 五、戸籍謄本 一通
- 六、自筆履歴書(市販書式) 一通
- 七、写真(履歴書に貼り付けたもの他にもう一枚) 計2枚
- 八、最終学歴の学校の卒業証明書(本年見込みの者は、それに代わる書類) 一通
- 九、最終学歴の学校の成績証明書(本年見込みの者は、それに代わる書類) 一通
- 十、新生の証し(A4用紙横書き、長さは自由) 一通
- 十一、召命の証し(A4用紙横書き、長さは自由) 一通

◆出願方法

志願者は出願書類の三十一をそろえて所属教会の牧師に提出してください。所属教会の牧師は一の所属教会牧師推薦書と二の教会

信徒推薦書を加えて封筒に封入し、簡易書留でご送付ください。

◆出願期限 2018年2月12日(月) 必着

◆審査日程 2018年2月26日(月) (3月5日から変更になりました)

◆審査会場 聖宣神学院

◆検定料 いただいております。

◆審査科目 書類審査、筆記試験(聖書、一般、面接)

◆合格発表 一週間以内に受験者宛に郵送で通知します。

◆その他の注意事項

- ▽所属教会の牧師と相談して出願してください。教会の承認を得て送り出されることは大切です。
- ▽試験日には、普段使用している聖書を持参してください。
- ▽主の召命の意味を心に留め、真実な教会生活を心がけてください。
- ▽入学後の経済について所属教会牧師と話し合ってください。
- ▽インマヌエル教会出身の方は、『インマヌエルの六十年』などを読み、教団の歴史と信仰について学んでみてください。
- ▽神学生納入金は、入寮生は月額3万円程度です。聴講生は科目数で受講料が決まります。その他、書籍代、交通費、食費など生活に必要な経費がかかります。入学金はありません。経済的な理由で学びが困難と思われる学生のためには奨学金制度(貸与)があります。

◆新しい年を迎えて

みことばと現実と自分

正規コース 峯尾仰生

「単にルールだけを決めても意味がないので、神学してみましよう。」

ある先生のこの言葉を聞き、私はハッと気付かされました。自分の頭ではほとんど考えずに、言われたことを、教えられたことを、決められていることをただ守ることに集中していただけであった。なぜこの学びをしているのか、なぜこのように行動しているのか、これを守ることによりのような影響があるのか、真剣に考える必要があることを先生の一言を通して教えられました。また、みことばと現実と自分を照らし合わせ、この3つの角度からバランス良く考える新たな示唆も頂きました。聖書のみことばを軸にして、現実を考察し、自分を客観視する力。この3点を新年のスタートにあたり改めて意識したいと思えます。その中でも特に自分を客観視するための一つ、自己洞察を深めることが現在心に通っており、神さまの前に、人の前に自分はどうのよう存在なのかを考え整理し、本当の自分を知り続けていくこと

により、神さまにやって頂くしかないことと多くの方に祈って頂かなければならないことを強く示されていくのだと思っております。

神学院で先生方と顔と顔を合わせ受講できていることや人格的な交流があることを感謝致します。先生から語られる言葉のみならず、全体から出されている雰囲気を感じる時に感情が動き、やる気を与えられると同時に私の弱さと足りなさに光が当てられております。

尊いお祈りとご支援に感謝しつつ、首記の3点を特に意識し、新年を神さまと共に喜びを持ってスタートさせて頂きたいと思えます。「あらゆる境遇に対処する秘訣を心得ています。私は、私を強くしてくださいる方によって」(ピロピ四・12・13)。

●新しい年を迎えて

今年は何をやるか

.....攻める?!

正規コース 竹内俊之

「あなたの道を主にゆだねね。主に信頼せよ。主が成し遂げてくださる」(詩篇三十七章5節)

新年明けましておめでとございませう。昨年の教報9月号では「緊張の夏！立て直しの夏！」と題して、なんと珍妙、奇天烈な体制立直しを宣言致しましたが、ここ

で改めて検証と新補強プランの発表！そしてとしちん「理想の教会スタイル！」を記します。(1)「緊張感ある肉体へ」其の一、「早朝ラン&ウォーキング七千歩の復活！」.....これは「朝のお掃除！レレレのとしちん」に形を変えて絶賛実行中！ただ走るだけでは得られなかった全身運動へ！とその行いは昇華しました！単なる脚のお肉と心拍強化↓竹箒(たけほうき)を操作しながら校内を「蝶のように舞う」その姿は「ほうきング博士」の乱舞！瘦身美容と校内美化の蜜月関係！血圧沈降と体調改善は達成！其の二、「食生活改善」.....野菜、酢中心の健康的栄養摂取！は「金曜日のマリネー」(洋画タイトルではありません?)を食べさせていただき改善傾向！

今後は量も「腹八分目」を心がけます！其の三、「少しムキムキ



神学生のチャペル奉仕

になる」.....プニプニで未達！腕立てやります！(2)「緊張感ある八丁脳味噌へ」其の一、「聖書通読再開！」.....毎日、教章の通読中！其の二、「説教作成(連講目指し)の自主練習開始！」.....意中の人！「ヨセフ」で書きはじめました！説教IIを通じて。

其の三、「妻の梨瑛の遺作『小さな・NO・OH』をピアノで弾きたい！」.....未だ全然、下手っぴいナリで、練習中！

そう理想の教会は「貧乏さん&泣いてる人&苦しい人&ひとりぼっちさん&部屋から出れない人達が楽に話せる「ゆるい教会」。愛するイエス様、助けてください。Amen.....

●新しい年を迎えて

新年を希望の中に迎えて

聴講生 斎藤純雄

「見よ。わたしは新しいことを行つ。今、それが芽生えている。」(イザヤ四三・19)

昨秋に、聴講生として神学院への入学が許され、1年間の充実した貴重な学びと訓練の機会を神さまからいただきました。毎日の授業やチャペルの礼拝、先生方と一緒にのお昼の食事や様々の奉仕など、本当に楽しく恵みあふれてい

ました。これも全国の皆様方の、篤いお祈りと御支援の賜物であることを覚え、心からの感謝を申し上げます。

自分が献身とBTC入学に導かれたのは、北日本ブロック・アドバイザー、深川・白鳥教会の兼牧、教団運営委員、神学院教師他の重責を担う自教会牧師の助けになりたいとの思いが、与えられていたことからでした。

1年の学びの区切りを迎え、自教会からのもう一人の献身者が、近々定住伝道師になる予定であること、自らの年齢(68歳)や能力、健康のことも牧師と共に祈りつつ熟慮して、自分は信徒伝道者として自由に用いていただくのが最もふさわしいという結論に、共に納得して導かれました。そして、今年

の信徒伝道者スクーリングの申込期限がギリギリで迫っていたのですが、常に真実な主の助けをいただき、1年間の神学院での学びと訓練が真に生かされ、恵みのうちにスクーリングを越えさせていただきました。

これまでの、自教会での3週に1回の早天の御用や礼拝・祈り会の司会に加えて、礼拝や祈り会の聖言のメッセージの御用も既に何回か仰せつかっています。そのような中で、現在後期の学びは、メソジズムIの1科目に絞らせていただき、今まで院長先生を始め、多くの諸先生から打ち込んでいただいた基礎の上に、充実した総決算的な学びが続いています。

私の神学生時代 主の召命に従って 14期生●末弘嘉孝



私は1959年4月12日、練馬区貫井町の家の近くの空地での天幕集會に出て、救いの恵みに与りました。それから単立・富士見台教会に欠かさず出席し、7月19日受洗致しました。

日本橋茅場町にある証券会社に勤務中、「人もし我に従い来たらんと思わば、己を捨て、己が十字架を負いて、我に従え」(マタイ一六章24節)の召命の聖言により献身を決議致しました。礼拝から帰宅し直ちに退職願を書きましたが、父の怒りをかい、勘当されて家を出ました。社長は「勤務を続けて欲しいが、聖職に着かれるのでは留める事はできない」と理解してくださり、1961年10月をもって退社する事ができました。それから約4か月程、新宿区柏木にあった東京聖書学院に聴講しました。北浦和のBTCも見学し、1962年4月に、第14期生(14名)として入学致しました。私は委託生のため、土曜の昼食後は母教会に戻って聖日の奉仕をし、月曜の夕食までに帰院する生活でした。2年の時にマクラケン

宣教師が米国に帰国する事になりました。聖書信仰、聖潔の宣証、世界宣教の群に加入する事となり、葛田二雄先生が富士見台教会まで来てくださり、献身者たちとの話合いの時を持たれました。この時から私は全てを主に委ねて、IGMの伝道者としての意識と自覚に切り替えて歩んで参りました。その間、孤独、経済的困難、心の葛藤や他の問題等、その都度祈って主の助けを与えられて参りました。3年の時は和歌山教会開拓に派遣され、卒業1か月前まで奉仕を継続致しました。卒業して53年となりましたが、摂理的に良き教団に導かれ、学院での学び、生活と訓練に与り、伝道者として会得する大切な基本を教えて頂き、感謝しております。

みことばの役者として聖書を良く学び、聖言と聖潔の信仰に生き続ける事が大切であること、朝の密室を始め、祈りによる神との親交を深め、祈りによって必要を満たされ、様々な課題の解決を得て乗り越えて行くことの大切さを学んで参りました。初代院長による月曜夜の心血を注がれた半徹夜の合同祈禱会は、霊の熱意をもって集中して神に祈る事を身に付けるように教えて頂きました。また、健全でメソジカルな生活を心がけて行く事も、学院生活を通して教えられて参りました。今日あるのは神の恵みとあわれみ、恩師のご指導とお祈りの故であると感謝致しております。哀歌三章22節。

同窓生の近況

40期生

神戸教会●岩上祝仁



先日、BTC時代を仲間と語りあっていた時、先生は怖かったと後輩から告げられました。「そんなに」と聞くと、「ほんま」と言われました。当時は信仰も生き方も肩肘張って、相当力んでいたのだと思います。今は10代の三人の子どもたちから、「お父さんは〜!」と言われるようになりました。色々と言ってくれる家族に感謝です。これからも自然体で主の恵みを生き、表せるようになりたいと思います。神戸の地に来て7年。まだまだ足りないところだらけですが、恵みに支えられ、また家族を始め、周囲の方々の温かなサポートを受けて奉仕が許されていることは感謝です。今はどれだけ主イエスを喜んでいるだろうかと探られています。主の喜びが溢れる信仰者、信仰生活、そして教会を目指したいと思えます。奉仕に迫られる毎日だからこそ、主の喜びに満たされて日々を過ごすことを祈り求めています。

「主を喜ぶことは、あなたがたの力だからだ。」(ネヘミヤ八章10節、新改訳2017)

神学院スタッフ…恵みの想起

新年度に向けて

図書館 小林 佳

神学院図書室でのご奉仕をはじめさせていただいたのが神学生4年生の時でしたが、早いもので7年目を迎えます。司書の資格を取ったのは2年目の時でした。

司書の資格を取って一番感謝だったことは、神学に関する書籍や資料等の分類の仕方が体系的・組織的に把握できるようになったことでした。現在では神学生の皆さんから様々な分野の書籍や資料について質問をいただきますが、それに対して応えることができますよう、私も日々研鑽を積みさせていただいております。

今年度もまた新たな書籍がたくさん生まれ出てくることでしょう。その全ての本を適切なかたちで、本当に必要としている方々に届けることができるように、今年も励んでいきたいと願っております。

学苑だより



●新年あけましておめでとうございます。昨年はお祈りとご支援をありがとうございました。本年もよろしくお願い致します。

●授業は9日(火)に再開、3月2日の卒業式までの一走りです。

●入学審査は2月26日(月)に行われます。受験する方が備えられるようにお祈りください。

●後援会からお願い 各教会の世話人のご推薦をお願い致します。お問い合わせは中山会長まで。

●創立70周年記念改修工事は第一期工事を終え、今年から第二期工事に入ります。本館屋根などの補修、不使用建屋の解体などが含まれます。お祈りください。

●神学院祈り会は第50回を迎えます。1月9日(火)は「記念感謝祈り会」を行いますので、いつも加わってくださる方、また久しぶりの方も、恵みのお証しなどを携えてぜひお集まりください。

サポーターズ

尊いお献げものに心より感謝申し上げます。11月の会計報告をさせていただきます。

11月分支援実状
(今年度毎月献金目標)
¥2,000,000

教会員による「神学院サポート献金」
¥1,220,950
教会団体による「神学院献金」
¥500,000
合計 ¥1,720,950
その他の献金(一時・特別)
¥477,500

・振替：00230-0-10138

公報

本部通達

「恐れるな。わたしはあなたとともにいる。」(イザヤ四一章11節)
 2018年の年頭、教団全体、各教会の新しい年の歩み出しに、主の導きと臨在と祝福が豊かでありますように。

■本部

▽本教団に属するすべての教会は、条例第81条の定めに従い、1月中旬に新年度の「教会総会」を開催します。教会員は、所属教会の総会(昨年度教財勢報告や承認、新年度の活動方針発表などがなされます)にご出席ください。また、各教会は年会資料となる「年報」を1月23日までに本部宛の提出をお願いいたします。

▽本年3月の年会における牧師の転任が内定している教会に対して、その旨の内示がなされました。教会総会もそれを前提に実施されます。後任牧師は発表されていますが、牧師の交替にあつて靈的整えがなされ、教会が守られ、さらに成長していくことができますように、お祈りください。

▽転任の移動期間は4月2日(月)から4月14日(土)となります。
 (会議)

30日(火) 財務委員会
 (決算書検討)

▽(総会・全国大会・年会関係)
 第21次総会

3月3日(土) 午後1時～8時
 30分
 会場 お茶の水OCCビル
 8階チャペル及び会議室

代表候補者3名が当教報紙上で公告されています。総会の議場における代表の本選挙のために、主の導きをお祈りください。

▽全国大会 3月4日(日)
 会場 市川市文化会館大ホール
 ・合同礼拝 午前10時半
 ・青年大会 午後2時～

▽第73次年会
 3月5日(月) 午前11時～6日(火) 正午
 会場 お茶の水OCCビル
 階チャペル及び会議室

総会・全国大会・年会と連続日程となりますが、準備から当日に至るまですべてに主のみ守りがあるようにお祈りください。

■総務局

2018年度の教団主要行事予定表(暫定版)を、昨年12月に各牧師宛に配布致しましたが、変更や修正がございましたら、1月31日までに本部総務局(担当・佐藤信行師)までお知らせください。

なお、21次総会・73次年会資料作成のため、各局・委員会・教区宛に、報告原稿をお願いしていますが、締切は例年よりも一週早く1月22日(月)となっております。今回も年会資料は事前送付を考慮しておりますので、ご理解とご協力をお願い申し上げます。

(財務委員会)
 昨年の責任役員会において、

2018年度の教団予算案が審議され承認されました。昨年度の本部費等(融資返済を含む)本部振替送金は、会計整理の都合上、1月19日までに手配をお願いします。(教団四献金について)

今年も宣教活動推進のために、各教会で以下の諸献金へのご参加をアピールして頂ければ幸いです。

- ◆国内宣教献金
- ◆世界宣教献金
- ◆神学院サポート献金
- ◆厚生資金献金

▽世界宣教局
 昨年11月の宣教聖日を超え、宣教コイン献金「愛の泉プロジェクト」が局に届き始めています。ご協力に感謝いたします。この献金は宣教地から申請された現地の具体的必要のために用い、また局全体のためにも使わせていただきます。なお本部送金においては「コイン献金」の項目にて送金をお願いいたします。今年も世界宣教のために皆様のご献金をよろしくお願いたします。

▽今年も宣教地の状況から局主催の宣教訪問団の計画はありません。なお、グループや個人で宣教地を訪問することは歓迎ですので、現地あるいは局(葛田敬子師)にご相談ください。

▽葛田就子宣教師は6月頃、報告のため帰国予定です。
 (IWF関係)

2018年・2019年の宣教師たちの予定は以下の通りです。
【帰国報告】

ホーリー宣教師 本年10月中旬～2019年9月頃
 ロビン宣教師 本年11月中旬～2019年10月頃

【再赴任】

アンドレア宣教師 本年3月頃
 ブランドン宣教師 本年4月頃
 宣教師を教会にお招きください。IWF基金からの支援を希望する場合は、5月と11月のIWF理事会前に申請書を提出してください。用紙請求、ご相談は担当の梅田登志枝師まで。

(SIBS関係)

▽國重潔志師は昨年11月、SIBS(南インド聖書学校)で短期宣教師として、講義などの奉仕にあたりましたが、この度、理事の一人にも選任されました。今後も良き協力関係が継続できるようにお祈りください。

■教育局

(ユーステーション関係)
 今年は8月13日(月)から16日(木)にかけて、第六回ユーステーション全国大会が開催されます。青年たちが主体となって進められる準備のために、お祈りとご協力をお願いします。

(金)にかけて、全国中高校生「とにキャン」が開催されます。会場は聖山高原キャンプ場、講師は川口竜太郎師(Dr. C. A. 代表スタッフ)、テーマは「The Goal」これが僕らの歩む道です。今からぜひともお祈りとご協力をお願いします。

いたします。そして、各教会から参加者をお送りくださいますようお願いいたします。

■聖宣神学院

▽入学審査は2月26日(月)に行います(3月5日から変更になりました。お間違いないように)。願書提出期限は2月12日(月)必着です。受験を考えておられる方は、本誌掲載の「聖宣神学院入学案内」をあわせて読み、間違いないように手続きを行ってください。

▽卒業式のご案内(日程が変更になりました)
 3月2日(金) 午後1時30分開式です。

▽第50回記念感謝神学院祈り会
 9日(火) 午後6時、本部会議室
 神学院祈り会は今月で50回目を迎えます。いつも加わってください。いつもお久し振りの方も、恵みのお証しなどを携えてお集まりください。

▽BTC後援会からのお知らせ
 後援会では引き続き各教会の世話人ご推薦をお願いしています。まだの教会はぜひお加わりください。

23日(火) 夕刻、本部会議室で推進委員会を行います。

▽女性牧師ホームの任命表掲載の郵便番号が誤ってましたので、訂正をお願いします。

(誤) 〒2445・0023
 (正) 〒2443・0023

教報PDFパスワード=1252